

予報第 4 号(8 月)

大 防 第 1018 号
平成 20 年 7 月 31 日

関係各位

大阪府病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

標記について次のとおり発表したので送付します。

病虫害発生予報第 4 号(8 月)

平成 20 年 7 月 31 日
大阪府病虫害防除所

農作物名	病虫害名	予想発生量
水稻	いもち病(穂いもち)	□～○
	紋枯病	△～□
	もみ枯細菌病	△
	内えい褐変病	□
	セジロウンカ	△
	トビイロウンカ	□
	ツマグロヨコバイ	△
	ニカメイチュウ(ニカメイガ)	▲
	イネツトムシ(イチモンジセセリ)	△
	コブノメイガ	△

	斑点カメムシ類	○
	イネアオムシ(フタオビコヤガ)	□
ぶどう	べと病	△
	褐斑	□
	晩腐病	□
みかん	そうか病	□
	ミカンハダニ	△
	ミカンサビダニ	□
果樹全般	果樹カメムシ類	□～○
なす	うどんこ病	△
	褐色腐敗病	□
きゅうり	うどんこ病	△
アブラナ科野菜	コナガ	△
	ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)	△
きく	黒斑病・褐斑病	○
野菜・花き類	アブラムシ類	□
	ミカンキイロアザミウマ	□
	ミナミキイロアザミウマ	□
	シロイチモジヨトウ	△
	ハスモンヨトウ	□
	オオタバコガ	○
	ハダニ類	○
▲:少ない △:やや少ない □:並 ○:やや多い ●:多い		

8月気象予報(大阪管区气象台7月25日発表)

	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温(確率)	10	30	60

降水量	40	30	30
日照時間	20	40	40

A 水稻

【いもち病(穂いもち)】

[予報内容] 発生量 : 並～やや多い

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、北部地域で葉いもち病発生がやや多く見られた。

(2)8月の気象は気温が高く、降水量が少ないと予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)葉いもちが発生していないほ場でも、今後の天候によっては穂いもちが発生することがあるので十分注意すること。

(2)晴天が続いても、谷あいのほ場では結露により本病が発生することがあるので注意を欠かさないこと。

[メモ]

(1)低温、多雨、窒素過多(葉色が濃い)で発生が多くなる。

【紋枯病】

[予報内容] 発生量 : やや少ない～並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生は少ない。

(2)8月の気象は気温が高く、降水量が少ないと予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)例年発生の多い所では、穂ばらみ期～出穂期にかけて薬剤散布を行う。

[メモ]

(1)高温、多湿で発生が増加する。

(2)窒素過多、密植栽培は発生を助長する。

【もみ枯細菌病】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

(1)昨年、予察ほ場ではもみ枯細菌病の発生は見られなかった。

(2)8月の降水量は少ないと予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)出穂直前～穂ぞろい期に防除を行う。

[メモ]

(1)出穂前後の降雨により発生が増加する。

【内えい褐変病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)近年、発生が増加している。

(2)8月降水量は少ないと予想されている。

(3)昨年、予察ほ場での発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)穂ばらみ期に薬剤散布を行う。

(2)出穂前後2回散布する方が効果が高い。

[メモ]

(1)出穂前後に高温で降雨があれば発生しやすい。特に台風に注意。

【セジロウンカ】

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生がやや少なかった。

(2)7月中旬までの予察灯への飛来虫数は少ない。

[防除上考慮すべき事項]

(1)株元をよく観察し、発生が多い場合は、薬剤散布を行う。

【トビロウンカ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生は平年同様見られなかった。

(2)7月中旬までの予察灯への飛来は平年同様ほとんど見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)急激に増加することがあるので、8月中下旬以降の発生に注意し、発生初期の防除を徹底する。

[メモ]

(1)8～9月の気温が高温に推移すると発生が多くなる。

(2)薬剤はなるべく株元にかかるように散布する。

【ツマグロヨコバイ】

〔予報内容〕 発生量：やや少ない

〔予報の根拠〕

(1)7月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

(2)7月中旬までの予察灯への飛来虫数はやや少ない。

〔防除上考慮すべき事項〕

(1)成・幼虫の発生が目立つほ場では8月上中旬までに防除を行う。

〔メモ〕

(1) 平年の成虫発生ピークは、8月下旬から9月上旬である。

(2) 箱施用剤のプリンス粒剤は、ツマグロヨコバイに対して効果が低い。

【ニカメイチュウ(ニカメイガ)第2世代幼虫】

〔予報内容〕 発生量：少ない

〔予報の根拠〕

(1)7月の予察灯への飛来虫数、フェロモントラップの誘殺虫数ともに少ない。

(2)7月の巡回調査では、第1世代幼虫の発生・被害とも平年同様見られなかった。

〔防除上考慮すべき事項〕

(1)局地的に多発するので、発生が多いところでは注意する。

〔メモ〕

(1)防除時期は8月中旬である。

【イネツトムシ(イチモンジセセリ)第2世代幼虫】

〔予報内容〕 発生量：やや少ない

〔予報の根拠〕

(1)7月の巡回調査では、第1世代幼虫の発生・被害は平年同様ほとんど見られなかった。

〔防除上考慮すべき事項〕

(1)「つと」の発生が目立つところでは8月上旬に防除を行う。

〔メモ〕

(1)7月が高温、多湿の年に第2世代幼虫の発生が多くなる。

(2)窒素過多(葉色が濃い)の水稻に多く産卵する。

【コブノメイガ】

〔予報内容〕 発生量：やや少ない

〔予報の根拠〕

(1)7月の巡回調査では、少なかった。

(2)発生時期は平年並。

[防除上考慮すべき事項]

(1)被害葉が目立つほ場では早めに防除する。

(2)薬剤防除適期は、成虫が目立つようになってから1週間後である。

[メモ]

(1)セジロウンカやトビイロウンカと同様に梅雨期に海外から飛来してくる。

【斑点米カメムシ類】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)7月中旬までの予察灯への飛来虫数及び捕虫網によるすくい取り虫数ではやや多かった。

(2)近年、発生は増加傾向にある。

[防除上考慮すべき事項]

(1)出穂2週間前の畦畔の除草を徹底する。なお、出穂前後の畦畔の除草は、カメムシ類を水田に追い込むため実施しない。

(2)薬剤防除適期は、出穂 10 日後頃である。

(3)カメムシ類は、日中はあまり活動しないため、夕方か早朝に薬剤散布を行う。

【イネアオムシ(フタオビコヤガ)】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)7月中旬までの予察灯への飛来虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ほ場を見回り、発生が多い場合は薬剤を散布する。

B 果樹

1 ぶどう

【べと病】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

(1)7月後半の巡回調査では、露地では平年よりやや少なかった。

(2)8月の気温は高く、降水量も少ないと予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1) 収穫後に薬剤を散布し、早期落葉を防ぐ。

[メモ]

(1) ベと病は天候により急激に蔓延することがある。

(2) 降雨が続き、気温が低めに推移すると発生が多くなる。

【褐斑病】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1) 7月後半の巡回調査では、発生量は平年並だった。

[防除上考慮すべき事項]

(1) 収穫後に薬剤を散布し、早期落葉を防ぐ。

【晚腐病】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1) 7月後半の巡回調査では、発生量は平年並だった。

[防除上考慮すべき事項]

(1) 鳥獣害や裂果等で傷ついた果房から発生することが多い。

(2) 被害房は園外に持ち出して処分する。

2 みかん

【そうか病】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1) 7月後半の巡回調査では、発生量はやや多かった。

(2) 8月の降水量は少ないと予想され、病害の拡大はないと思われる。

【ミカンハダニ】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

(1) 7月後半の巡回調査では発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1) 例年梅雨明け後から発生する。降雨が少ないと発生が多くなる。

(2) 同系統の薬剤を多用すると抵抗性を発達させる恐れがある。

【ミカンサビダニ】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1) 7月後半の調査では被害果は平年どおりなかったが、例年梅雨明け後から増加する。

[防除上考慮すべき事項]

(1) 被害果が多く見られるようになってからの薬剤散布では、十分な効果を得にくい。

3 果樹全般

【果樹カメムシ類】

[予報内容] 発生量: 並～やや多い。

[予報の根拠]

(1) フェロモントラップによる誘殺虫数は、全体的には平年並だが、一部でやや多かった。

(2) 近隣県で発生が多く確認されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1) カメムシ類は園によって飛来状況が大きく異なるので、注意深く見回り、発生を認めたら防除を行う。

(2) カメムシ類の活動が活発な夕方か早朝に薬剤を散布する。

C 野菜

【うどんこ病】 寄主作物: なす、きゅうり

[予報内容] 発生量 : やや少ない

[予報の根拠]

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生はやや少なかった。

(2) 8月の気温は高く、日照量はやや多いと予想されている。

(3) 7月の植物防疫協力員からの報告では、平年並からやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1) こまめに摘葉、摘芯を行い、過繁茂にならないようにする。

(2) 発生初期の防除を徹底する。

(3) 樹勢が衰えると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。

[メモ]

(1) うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。

(2) ストロビルリン系剤(アミスター、ストロビー)の連用は避ける。

(3) ストロビルリン系剤の使用時には、薬害の恐れがあるため、浸透性展着

剤は加用しない。

【**褐色腐敗病**】 寄主作物:なす

[予報内容] 発生量 :並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)8月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)被害果等は速やかにほ場外へ持ち出し、処分する。

(2)降雨による泥のはね上がりを防止するために、マルチや敷きわらを行う。

(3)初期防除が重要なので、発病を認めた場合にはすぐに防除を行う。

[メモ]

(1)集中的な豪雨が多い年に発生が多い。

(2)なすでは降雨時に収穫した果実で、出荷後に発病する場合がある。

キャベツ等アブラナ科野菜

【**コナガ**】

[予報内容] 発生量 :やや少ない

[予報の根拠]

(1)7月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、やや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期に防除を徹底する。

(2)被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。

(3)薬剤抵抗性を生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。

【**ハイマダラノメイガ**(ダイコンシンクイ)】

[予報内容] 発生量 :やや少ない

[予報の根拠]

(1)7月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、やや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)セル成形苗では発生すると欠株を生じるので、発生初期に防除を徹底する。

(2)被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。

(3)近年、発生は増加傾向にある。

[メモ]

(1)8月に発生が急激に増加することがある。

D 花き類

1 きく

【黒斑病・褐斑病】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)7月後半の調査では発生量はやや多かった。

(2)定植期に発生したほ場が多く、降雨などで再発生することが考えられる。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発病した下葉は早めに取り除いて処分する。

(2)降雨による泥のはね上がりを防止するために、マルチや敷きわらを行う。

E 野菜・花き・大豆

【アブラムシ類】 寄主作物: 野菜・花き・大豆

[予報内容] 発生量 : 並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)黄色水盤での7月の誘殺虫数は、平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)少発生時の防除を徹底する。

(2)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

[メモ]

(1)アブラムシ類はウイルス病を媒介する。

【ミカンキイロアザミウマ】 寄主作物: 野菜・花き

[予報内容] 発生量 : 並

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)7月の青色粘着トラップへの誘殺虫数はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)収穫後の残さは、他作物等への発生源となるので、速やかに処分する。

(2)きくでは膜割れ前後の防除を徹底する。

[メモ]

(1)ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマは、ウイルス病(TSWV)を媒介する。

【ミナミキイロアザミウマ】 寄主作物:野菜・花き

[予報内容] 発生量 :やや少ない

[予報の根拠]

(1)7月の露地なすの巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。

(2)同一薬剤の連用を避けローテーション散布を行う。

【シロイチモジヨトウ】 寄主作物:野菜・花き・大豆

[予報内容] 発生量 :やや少ない

[予報の根拠]

(1)7月のフェロモントラップへの誘殺虫数はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。

(2)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合)で被覆すれば、成虫の侵入を阻止できる。

(3)フェロモンディスペンサーを設置すれば、成虫の交尾を阻害し、被害を軽減できる。

(4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【ハスモンヨトウ】 寄主作物:野菜・花き

[予報内容] 発生量 :並

[予報の根拠]

(1)7月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。

(2)7月のさといもの巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。

(2)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合で可)で被覆すれば、成虫の侵入を阻止できる。

(3)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

(4)8月以降、急激に増加することがあるので、メールサービス等の情報に

注意する。

【**オオタバコガ**】 寄主作物:野菜・花き

[予報内容] 発生量 :やや多い

[予報の根拠]

(1)7月下旬の巡回調査では、なすでの発生はやや多かった。

(2)7月のフェロモントラップへの誘殺虫数はやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。

(2)被害のあった新芽や果実は早期に処分し、周辺の幼虫を探して捕殺する。

(3)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を阻止する。

(4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【**ハダニ類**】 寄主作物:野菜・花き・大豆

[予報内容] 発生量 :やや多い

[予報の根拠]

(1)7月の巡回調査での発生はやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除を徹底する。

(2)同一薬剤の連用を避ける。

[メモ]

(1)高温、乾燥条件で多発する。

農作物の病害虫に関する情報は

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府病害虫防除所メールサービス担当

TEL 072-958-6551(内線232)

<情報料無料>

年間約40件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府環境農林水産総合研究所(本部)

企画調整部技術普及課

おおさかアグリメール受付担当

TEL 06-6972-7666

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です。)

●Web版大阪府園芸植物病虫害図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病虫害」

<http://www.epcc.pref.osaka.jp/afr/zukan/index.html>

(社団法人大阪府植物防疫協会)